



2020年の東京オリンピックの 成功を目指して

日本ゴルフ協会会長 竹田 恆正

霞ヶ関カンツリー倶楽部

世界で戦える選手の育成 もっとゴルフ人口を増やそう

大中 霞ヶ関カンツリー倶楽部のオリンピック会場決定に関してはいろいろご苦労がありました。最初は、お疲れ様でした。

竹田 有難うございます、少し時間がかかりましたが。

大中 霞が関は確かカナダカップで中村寅吉氏と小野光一氏が優勝したコースで、マスターズ会場に匹敵するような歴史と伝統を備えていますね。

竹田 そうですね、歴史的な一幕でした。

大中 しかし、女性プレイの問題では今や世界の潮流ですから、ご足労されている結論が得られ、結果的によかったですね。

竹田 霞ヶ関カンツリー倶楽部も五輪会場に決定してから15億円かけて東コースを改修しているので、様々な言い分があるのは仕方ありません。辞退となれば、汚名だけが残って名門の看板に傷が付きましますからね。

大中 世界の名プレイヤー達も日本のゴルフ場の質の良さを知っています。

竹田 先日霞ヶ関にさらに素晴らしきコースが出来上がって、竣工式の1週間前にその女性問題が一件落着いたわけです。

大中 私の友人にも霞ヶ関のメンバーがたくさんいますが、皆、評価していますよ。

竹田 竣工式の後にコースを回りましたが、実に見事な出来です。

大中 とところで、竹田さんのゴルフに対する造詣の深さは有名ですが、ゴルフとの出会いは。

竹田 大学3年の頃です。大学のクラブに入っていたわけでもありませんが、軽井沢ゴルフ倶楽部で少しプレイしていたのが始まりです。

大中 それは意外ですね。三菱商事に入社後は。

竹田 当然ゴルフは続けましたよ。当時の総合商社と言えば、社員たるもの、ゴルフは義務、という感じでしたから(笑)。

大中 では入社してから本格的に始めたのですか。

竹田 いいえ、1978年に東京ゴルフ倶楽部のメンバーになってからです。西ドイツの駐在員を約5年、その後米国のビジネススクールへ留学、じっくり腰を落ちつけてゴルフ

に励み始めたのは帰国した35歳頃からです。

大中 本コースは。

竹田 東京ゴルフ倶楽部が本コースで、他は程ヶ谷カントリークラブと軽井沢ゴルフ倶楽部ですから、専らクラブ内競技で鍛えた、ということでしょうか。

大中 当然クラブ・チャンピオンの経験も。

竹田 ええ、48、9歳の頃に程ヶ谷で、他では決勝まで何度か辿り着いたのですが。

大中 凄いですね。決勝まで勝ち進むこと自体驚きですよ。

竹田 例えば東京クラブには、プロアマで有名だった中部銀次郎さん(下関ゴルフクラブ理事長)や、鍋島直要さん(元鍋島報効会会長/日本ゴルフ協会常任理事)といった強豪が控えていてかなり影響を受けました。

大中 ハンディは。

竹田 昔は20年程2〜5でしたが、今は東京クラブで18、程ヶ谷では15です。

大中 程ヶ谷の方が成績がいいんですね。

竹田 優しいコースですから(笑)。

大中 竹田さんは攻め方を知ってい



て、飛ばせるので優しいのかも知れませんが、程ヶ谷の2番と11番のロングは必ず失敗する難しいコースですよ。

さて、ゴルフと出会ってよかったことは。

竹田 年を重ねても運動を続けられるし、ゴルフを嗜んでいる人は皆元気でですよ。

大中 やはり歩いてるからでしょう。東京クラブで最も多かったラウンド数は年間どれ位になりますか。100回は超えているのでは

竹田 さすがに100回は超えませんがね。

才能のある人材を 早い段階から押さえる必要性

大中 ところで、最近の日本のゴルフ会についてですが、試合数より中身をレベルアップさせて、かつての青木功やジャンボ尾崎、中嶋常幸のようなスターがいないと、男子トーナメントの充実はないと思います。

竹田 そうですね。日本のコースは割と優しいので、国内でプレイしているだけでは海外で全く通用しません。

そして益々外に出たがらなくなっ

て殻に閉じこもったような悪循環になっっています。

大中 女子も昨年は確か35回のトーナメントが国内で開催されていますが、その内10数回は外国選手が優勝です。まあ、それだけオープンにしているのですから、仕方ありませんが。

しかし、最近のアジア勢の急伸ぶりと言えば、本当に目を見張るほどです。最近では中国、ベトナム、タイも台頭しつつあります。

竹田 そのとおりですね。

大中 日本もアジアだけでなく世界に開放にすべきです。

もちろん、お金もかかりますが、日本のトーナメントが活性化されれば人気も出ます。

竹田 JGTTO（日本ゴルフツアー機構）は、国内でなかなかスポンサーがつかず、アジアを舞台にいろいろとタイアップして頑張っているようです。

大中 竹田さんの眼から見て、海外と比較して、日本のゴルフの劣っている点は。

竹田 海外の強い選手とのプレイ数が少な過ぎる点です。

大中 それとやはり、根本的にゴル

フ人口を増やさなければいけないですね。

竹田 仰るとおりです。ゴルフ振興策はいろいろありますが、日本ゴルフ協会も目指して努力している一番の近道は、とにかく強い選手の育成です。

一流のコーチを招聘し、強いナショナル・チームを作るには莫大な資金が必要です。去年から豪州のコーチを迎え入れているのですが、これをもっと徹底して行なわなければなりません。

大中 そうですね。

竹田 それに、今のゴルフ選手の大半は、ゴルフをしていた親の影響で始めた人達の中から選ばれたに過ぎません。

大中 言われて見れば、そうなりま

すね。
竹田 例えば、野球の大谷選手のような人材を、早い段階から押さえるという戦略も必要でしょう。

そして、当然のことながら、ゴルフのことを何も知らない人間をスカウトするのですから、きちんと受け皿を作り、そこからずっと面倒を見ていかなければなりません。これがなければ、才能のある人材は、残念

ながら他のスポーツに流れてしまいます。

大中 最後に、日本ゴルフ協会の会長に就任されてもうすぐ2年ですが、協会並びにゴルフ界をどう改革していきたいですか。

竹田 ちょうど今、ゴルフ関連の各協会・団体が一堂に会した「サミット・ミーティング」の一番の議題が、まさに業界全体で『強い選手を育成しよう』となっているんです。

大中 育成という点では、ゴルフは紳士のスポーツですから、マナーに對する啓蒙活動も重要だと思いますね。

日本でゴルフが始まって1世紀以上が経ち、2020年には東京五輪が開催されます。是非とも協会会長として、マナーの徹底を発信して頂きたいですね。

竹田 もちろんです。マナーはまさにゴルフの原点ですから。

大中 私もゴルフ愛好家の端くれとして、日本ゴルフ界のさらなる発展のため、精一杯応援します。

竹田 温かい応援団がいて下さるので心強いです。
精一杯頑張ります。有難うございました。